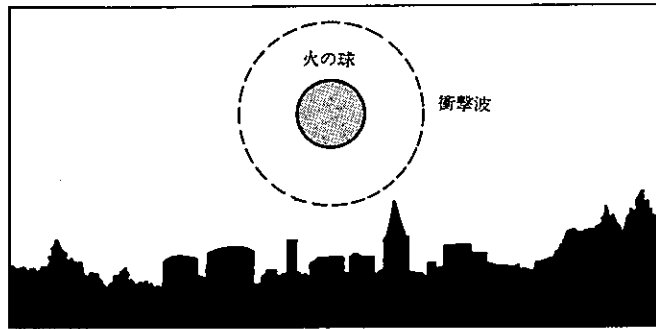
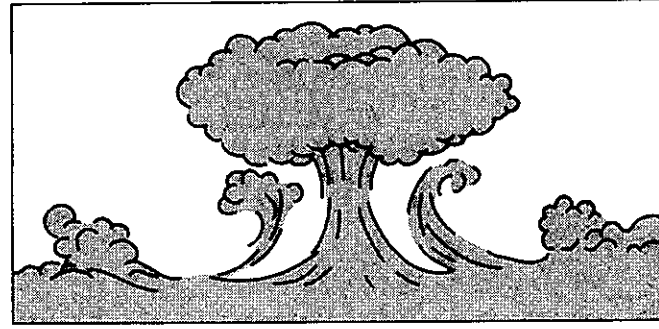


# 「核の冬」現象はこうして起きる

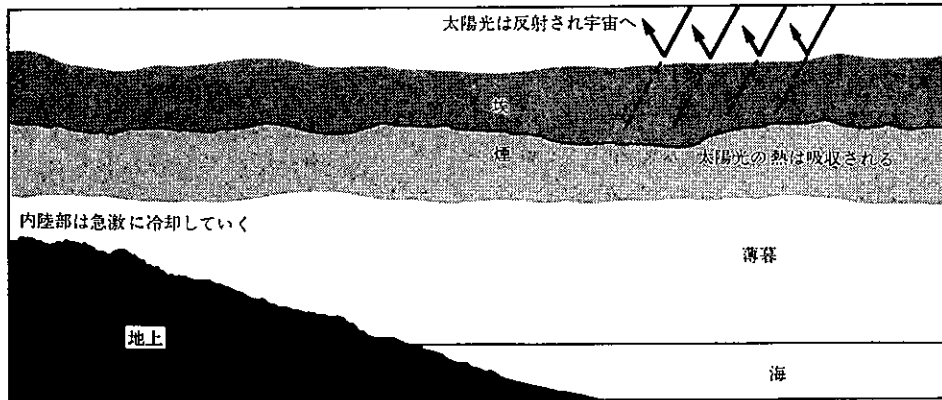
ストックホルム国際平和研究所編「世界の軍事力'85~86」  
『世界週報』1985.11.1 時事通信社から転載



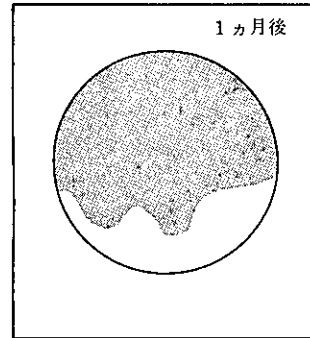
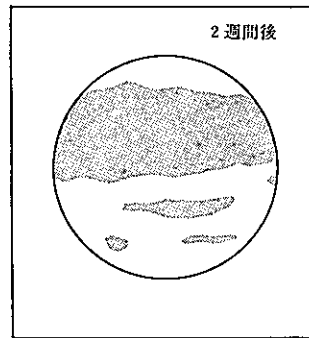
核爆発による強力な熱が都市、燃料タンク、森などを焼き尽くす。膨大な量の埃と煙が大気中に巻き上げられる。



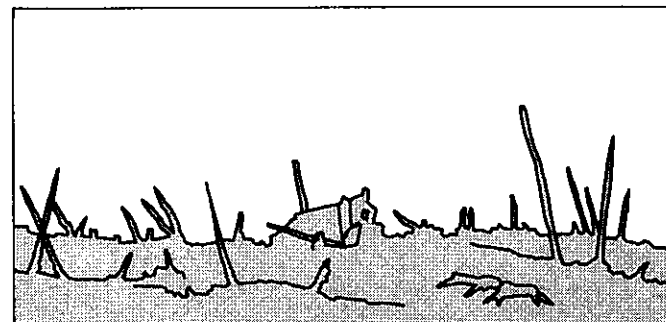
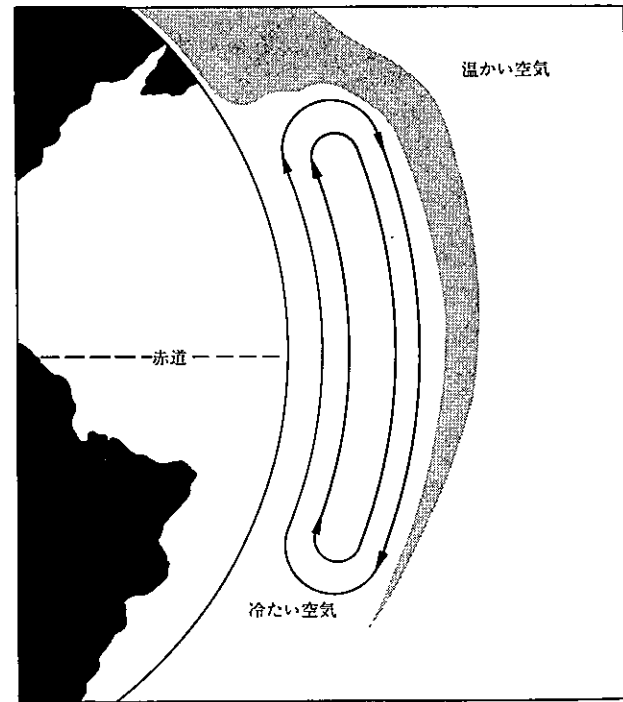
核爆発によって発生した火災はさらに拡大し、大量の煙が大気中へ広がっていく。



厚い埃と煙の層が何日間も北半球をおおい、このため太陽光は雲によって吸収されるか反射によって宇宙へと行ってしまふ。雲の下では何日間か暗い日が続く。このため、太陽の熱効果がなくなるため、内陸部は急激に冷えていく。



気象システムへの影響は大きく、気流は南方へ移動し始める。数ヵ月後、埃の層はだいぶ薄くなったが、雲は地球上をさらにおおうようになる。核の冬による寒さは数ヵ月間続く。



温かさの欠如は生物体系に大きな影響を与えた。北半球が凍てついたため食物の生育は止まり、低温により熱帯林は破壊され、大洋中の食物連鎖も破滅する。人間や動物は餓え、病気になる。

## 広島・長崎の原爆被災概要

広島 1945.8.6		長崎 1945.8.9	
死者	118,661人	死者	76,894人
不明	3,677人	重軽傷者	74,909人
重傷者	30,524人	罹災者	120,820人
軽傷者	48,606人	罹災戸数	18,409戸
罹災者	118,613人	全焼	11,574戸
全焼	55,000戸	全壊	1,326戸
半焼	2,290戸	半壊	5,509戸
全壊	6,820戸		
半壊	3,750戸		

「昭和21年8月10日付調査 広島市調査課まとめ」および  
「広島県警察部 昭和20年11月30日発表」  
（『昭和60年版 原爆被爆者対策事業概要』広島市）から

「原爆資料保存委員会報告 昭和25年7月」  
（『昭和60年版 原爆被爆者対策事業概要』長崎市）から

写真は広島市に落された原爆のきのこ雲 広島文化センター提供(アメリカ陸軍病理学研究所から返還資料)